

「河口慧海の足跡を辿って」ーかつての王国ムスタンと聖地ドルポー

稲葉 香

HAJ 会員、“ドルポ BC in 大阪府千早赤阪村”主宰、ネパール探究家、美容師

河口慧海師の旅(ネパール側)

慧海師が日本出立後、1897 年 7 月 25 日インドのダージリンに着き、チベット語などを勉強するために、カルカッタのマハーボーディ・ソサエティーのチャル・チャンドラー・ボースからのダージリン在住のサラットチャンドラー・ダースを紹介され、彼はチベット語の教えを老僧に頼み、慧海師はこの僧達からチベット語や習慣などの教えを受けました。

1 年 5 ヶ月滞在し、1899 年 1 月 23 日ブッタガヤ着、1 月 25 日ボダナートのチベット仏教僧ブッタバッサラと偶然に会い、一緒にセゴリーから日本人初の訪問者としてネパール・インド国境の町を出発。

2 月 1 日カトマンズ着、チベットへの入国路を探り、ラサヘカトマンズから早く行く路には、必ず 12 ケ所の関所を通らねばならず、正体を疑われるので危険だということで、カトマンズから西北のポカラを経て、カリガンダキ河を遡上し、マルファ〜ロー州(現在のムスタン)からチャンタン(チベット)へ出て、マナサロワールからカイラスを詣でてラサへ進む路をとることにしました。

3 月初旬に馬で出発、5 日後にポカラ、6 日後にトウクチェ着。

ここでムスタンからチャンタンへ抜ける情報を得るが、チャンタンには 2 ヶ月前から、この間道には兵士を置いて、外国人など変な人を通らせないという情報を得た。

5 月中旬、ちょうどツァーランの僧がトウクチェに滞在しており、彼からチベット語、仏教、文学の教えを、慧海師は中国仏教を教えるということで、ツァーランへ 2 日後出発、そこでチベット入国の秘策を得るために情報を集め、村人へは医師の真似事をしたり、説教したりして、信望を深めた。また石を背負い登山のトレーニングなどもして 10 ヶ月も滞在した。

1900 年

3 月 10 日 ツァーランを発つ

3 月 13 日 マルファ着

アダムナリン宅逗留、ツァーラン滞在中、チャンドラー・ダースと連絡をとった為、手紙を運んだ
行商人が怪しい人物であると吹聴したので、アダムナリンに釈明せざるを得なくなり、日本人であることを打ち明けた。彼も秘密を守ってチベット行きを応援してくれた。

6 月 12 日 マルファ発

6 月 13 日 ダンガルゾン

6 月 14 日 逗留

6 月 15 日 午後 8 時サンダ着

6 月 16～17 日 サンダ逗留

6 月 18 日 ターシータン(谷の路) 午後ペロルのカルカ(8 里)

6 月 19 日 タシン・ラ 午後 5 時河原(6 里)

6 月 20 日 ツアルカ 午後 2 時着(3 里半)

旅行記では、20、21、22 記載なし、6 月 23 日ツアルカ到着

6月21日 マルファの案内人を解雇、村人一人を案内人として雇用
6月22日 朝7時出立、モー・ラを超えて河の出合(カジャン)、5時半着(8里)

6月23日 7時半出立 午後6時ティンキュー着(9里)
旅行記ではツアルカ到着日

6月24日 逗留

6月25日 7時出立 シーメン午後2時着(4里半)
旅行記では、24日、25日ツアルカ逗留

6月26日 6時半出立 コマンを通りナムド(8里)
旅行記では、ツアルカ出発日。

6月27日 7時(7里半)出立、西南山中、3里半、昼食3里上がり、頂上(セラ・ラ)西へ1里
1里でシェゴンパ(7里半)

6月28日 逗留 ツアーランの案内者解雇、
シェンチェン・ラマと出会う

6月29日 逗留
旅行記では、27～30日まで記載
なし(省略)、シェーゴンパ参拝?

6月30日 シェー山周回巡礼

7月1日 7時ヤクに乗って出立、来た路を
戻り、2里上がり(峠:セラ・ラ)
1里下り、元の路を離れて2里半、
ナムグンゴンパ寺を見て、2里半
午後6時サルダンの岩屋
旅行記では、3日路で峠へ。

7月2日 逗留

7月3日 7時出立、川を下り3里余り、テンギユ川(パンザンコーラ)南岸へ橋東に渡り、危険ならざる
橋(四尺巾×八間)を北に渡る、東に1里弱上がる昼食、同じ方向に上がること荘厳なヤンチェ
ルゴンパ大寺あり、これより上がり、下り半里、北方、少し東より流れる急流に添って北、少し
東にあがること5里(黒く塗りつぶし:スキャンするとヤク(牦牛)という言葉が5回出て来る)
間ノ原(ヤクの食する草が生え)毛布を敷いて臥す。雪峰が月明かりに見え、川のせせらぎを
聞き快眠(10里)

7月4日 真黒塗り(ヤク到着)9時半出立、北方の山中、急坂を上がり、雪と岩を渡りあがること1里
半、流れで昼食、北方へ雪を1里上がると峠(クン・ラであらう峠)チャンタンの流れを見る
雪峰連綿として・・・、峠より東北へ降りる。



(大西 保 資料より引用)

稲葉 香

山域 : Nepal Upper Mustang & Upper Dolpo & Low Dolpo

期間 : 2016 年 8 月 17 日～10 月 26 日

メンバー : 隊長 稲葉香 隊員 伴久美子 清水玲子 (Upper Mustang のみ)
 ガイド : Agam baniya キッチンポーター : Laxman baniya
 ポーター : Sadip Gurung 馬方 : Mim thakali 馬 : 4 頭

：目的

- ・河口慧海の足跡を辿り、現代のトルボを探る。
- ・2016 年は、慧海生誕 150 年、越境してから 116 年目になる。
- ・19 世紀の探検家である慧海ルートを忠実に辿り先人の叡智に触れながら、21 世紀の現代のトルボの魅力を探る。

=== 日程表 ===

- 8/17** 大阪発
 18 カトマンズ着
 19 カトマンズ準備
 20
 21
 22 カトマンズ ～ ベニ (830m)
 23 ベニ ～ ジョムソン (2720m)
 24 ジョムソン ～ カグベニ (2810m)
 25 カグベニ ～ チレ (3050m)
 26 チレ ～ ランチョンチョルテン ～ シャンボチェ (3800m)
 27 シャンボチェ ～ ツアーラン (3960m)
 28 ツアーラン
 29 ツアーラン ～ ローマンタン(3810m)
 30 ローマンタン
 31 ローマンタン (Koncholing cave)
9/1 ローマンタン (marjove cave)
 2 ローマンタン (チョゾンゴンパ)
 3 ローマンタン ～ ダークマー (3820m)
 4 ダークマー ～ シャンボチェ (3800m)
 5 シャンボチェ ～ チュクサン (2980m)
 6 チュクサン ～ ジョムソン (2720m)
 7 ジョムソン
 8 ジョムソン
 9 ジョムソン ～ ダンガルゾン (3205m)
 10 ジョムソン ～ パレック ～ キャンプ (4453m)
 11 キャンプ ～ サンダ ～ ターシータン入り口 (3960m)
 12 ターシータン入り口 ～ 百丈の橋(4173m) ～ カルカ (4885m)
 13 カルカ ～ キャンプ (4674m)
 14 キャンプ ～ ツアルカ (4302m)
 15 ツアルカ ～ モーラ(5035m) ～ キャンプ (4664m)
 16 キャンプ ～ カジャン ～ キャンプ (4342m)
 17 キャンプ ～ ティンキュー (4110m)
 18 ティンキュー



- 19 ティンキュー ～ シーメン (3850m)
- 20 シーメン ～ コマ ～ ドウンター (3957m)
- 21 ドウンター ～ セラ・ラ(5110m)～ シェー山 (4343m)
- 22 シェー山
- 23 シェー山・穴&奇峰岩チェック
- 24 シェー山 ～ サルダン (4051m)
- 25 サルダン ～ ニサル (3845m)
- 26 ニサル ～ クンコーラキャンプ (4815m)
- 27 クンコーラ ～ クン・ラ (5411m) ～ BC (5325m)
- 28 BC ～ イエメルンカン (6028m) ～ BC (5325m)
- 29 イエメルンカン ～ ニサル (3721m)
- 30 ニサル ～ ユード (4480m)
- 10/1 ユード ～ ポー前 (3626m)
- 2 ポー前 ～ ポー(4087m) ～ ポー前 (3626m)
- 3 ポー前 ～ ビジョール (3805m)
- 4 ビジョール ～ サルダン (4001m)
- 5 サルダン ～ キャンプ(4374m)
- 6 キャンプ ～ タクシー (4227m)
- 7 タクシー ～ ドゥータラップ (4087m)
- 8 ドゥータラップレスト
- 9 ドゥータラップ ～ 峠 (4674m)～ チャ・ラ(5087m) ～ キャンプ(4329m)
- 10 キャンプ ～ トンネル見学 ～ テインマール (3965m)
- 11 テインマール レスト
- 12 テインマール ～ セリ (4040m)
- 13 セリ ～ テラン(3600m) ～ ムー(3968m)
- 14 ムー ～ ハイキャンプ (4840m)
- 15 ハイキャンプ ～ ムー・ラ(5724m) ～ ヤクカルカ(4984m)
- 16 ヤクカルカ ～ トジェ・ラ(5554m)～ ゲバ・ラ(5146n)～ ゲバ・ラ前(3960)
- 17 ゲバ・ラ前 ～ パリヤック (3355m)
- 18 パリヤック ～ ジョムソン(2935m) ～ マルフア(2760m)
- 19 マルフア ～ ポカラ
- 20 ポカラ
- 21 ポカラ ～ カトマンズ
- 22 カトマンズ
- 23 カトマンズ
- 24 伴帰国
- 25 稲葉帰国
- 26 大阪

(下の写真はともに稲葉香撮影)



